

両親の喫煙習慣と 仕上げ磨きの頻度は 4歳児の虫歯と関連する

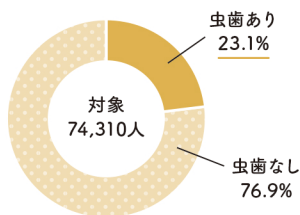
研究の背景と目的

虫歯は非常にありふれた病気であり、世界中で未就学児のおよそ半数にみられます。乳歯に虫歯があると、永久歯の虫歯を3倍程度起こしやすいことが知られています。虫歯は学業成績低下や大人になってからの健康状態の悪化と関連しているため、早いうちから虫歯を予防することは非常に重要です。

今回の研究では、エコチル調査に参加している74,310人のお子さんを対象として、4歳までの虫歯と関連する要因を見つけることを目的としました。

研究結果

対象となった74,310人のうち、
4歳までに虫歯と診断された
お子さんは17,167人(全体の23.1%)
でした。

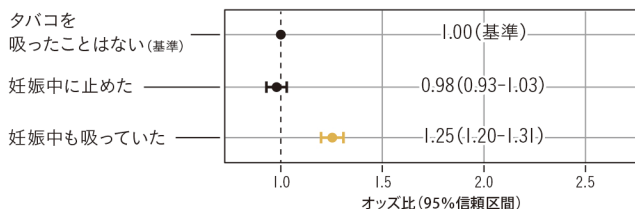
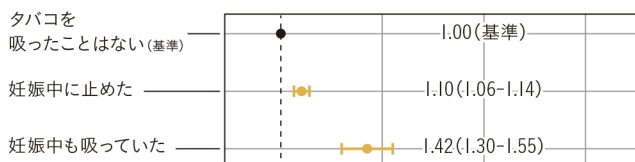


両親の学歴・世帯収入・1日の歯磨き回数・フッ素入り歯磨き粉の使用・指しゃぶり、歯ぎしりのくせ・噛み合わせの悪さ・母乳の継続・身長・体重を用いて統計学的に調整を行いました。これらの要因の影響を除いた結果、両親が毎回仕上げ磨きをしている群を基準として、時々仕上げ磨きをする群では4歳までに虫歯と診断されるオッズ(※)が1.33倍でした(図1)。

また、お母さんがタバコを吸ったことがない群を基準として、妊娠中もタバコを続けた群ではオッズが1.42倍、さらに妊娠中にタバコを止めた群でもオッズは1.10倍と高値でした。

お父さんの喫煙に関しては、タバコを吸ったことがない群を基準として、お母さんの妊娠中もタバコを続けた群ではオッズが1.25倍と高値でしたが、妊娠中にタバコを止めた群ではオッズが0.98倍であり、タバコを吸ったことがない群との間に差がありませんでした。

図1



今回の研究から分かったコト

今回の研究は、お子さんの歯の健康を守るためには両親による毎回の仕上げ磨きが大切であると裏付けるものでした。また、両親の喫煙はお子さんの虫歯と関連しており、興味深いことにお母さんが妊娠中に喫煙を止めても、その影響は残ることが示されました。今後さらに研究を進めることで、そのメカニズムが明らかになることが期待されます。

【用語の解説】

- ※1 オッズ:ある事柄が起きる確率を起きない確率で割った比率のこと。ある事柄の起こりやすさを表します。
- ※2 オッズ比:ある事柄の、一つの群ともう一つの群のオッズの比。基準となる群と比べて、興味のある群ではどの程度その事柄が起こりやすいかを示します。
- ※3 95%信頼区間:データの推定値(例えばオッズ比など)が実際の値とどれだけ一致するかを示す区間。オッズ比が1の時、その群と基準となる群との間には起こりやすさに差が無いと判断され、この区間が1をまたいでいない場合、統計学的に意味がある(有意に差がある)と判断します。